

大河内小だより

2026

http://www.okawachisho.com　令和８年１１月２日

全校補充学習「チャレンジタイム」に取り組んでいます



今年度は、水曜日の５限目をチャレンジタイムの時間に設定し、集会や全校遊びのない日に、全校補充学習に取り組んでいます。主な内容を紹介します。

① デジタル教材「eライブラリ」を自分の力で進める。
② 授業の中で未定着がある内容を個別に復習する。
③ 学Viva!!セットやうでだめシートなどのプリント教材に時間をかけて取り組む。

子どもたちは、自分に合った学習を選び、新たな目標を持ち、こつこつと練習を重ねています。その継続の中で、わかる喜びを味わいながら、それぞれの力を伸ばしてしてほしいと思います。

各種学力調査の結果から・・・

	本校の平均正答率
国語	71%(+10.1)
算数	61%(+4.6)

※( )内は、全国平均との比較です。

本年度も全国学力学習状況調査が実施されました。本校の結果について、今年度の結果からみえてきた特徴をお知らせします

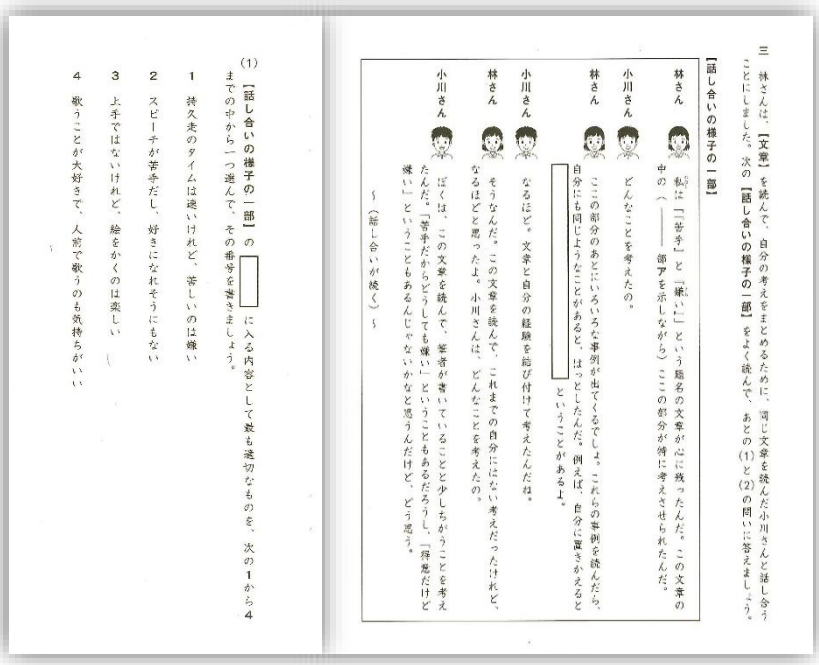
○は成果がみられたもの 、
●は課題がみられたもの です.

【国語について】　（※以下の分析は県平均と比較しています。）

○文章の工夫を説明した文章題で、適切なものを選択する問題は、県平均より 13.1%高く、文章の一部から読み取り、そこに続く文として適切なものを選択する問題は県より 18.3%高かったです。目的に応じて、文章と図を結び付け、説明したり、書き加えたりする問題では正しいものを選択することができていました。

昨年度の弱みをもとに語彙の習得に力を入れ、自分の考えや理由を明確にして書く活動を継続してきたことが成果として現れていました。「短い」は正答率 100%でした。

この 3 年間の傾向では、文章を書く活動では、高い力がついているという結果を得ていますので、大河内の子どもたちの強みと言えます。



三　林さんは、【文章】を読んで、自分の考えをまとめるために、同じ文章を読んだ小川さんと話し合うことにしました。次の【話し合いの様子の一部】をよく読んで、あとの(1)と(2)の問いに答えましょう。

【話し合いの様子の一部】

林さん　私は「苦手」と「嫌い」という題名の文章が心に残ったんだ。この文章の中の〈　　〉部アを示しながら〉ここの部分が特に考えさせられたんだ。

小川さん　どんなことを考えたの。

林さん　ここの部分のあとにいろいろな事例が出てくるでしょ。これらの事例を読んだら、自分にも同じようなことがあると、はっとしたんだ。例えば、自分に置きかえると［　　］ということがあるよ。

小川さん　なるほど。文章と自分の経験を結び付けて考えたんだね。

林さん　そうなんだ。この文章を読んで、これまでの自分にはない考えだったけれど、なるほどと思ったよ。小川さんは、どんなことを考えたの。

小川さん　ぼくは、この文章を読んで、筆者が書いていることと少しちがうことを考えたんだ。「苦手だからどうしても嫌い」ということもあるだろうし、「得意だけど嫌い」ということもあるんじゃないかなと思うんだけど、どう思う。

〜〈話し合いが続く〉〜

(1)　【話し合いの様子の一部】の［　　］に入る内容として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

1　持久走のタイムは速いけれど、苦しいのは嫌い

2　スピーチが苦手だし、好きになれそうにもない

3　上手ではないけれど、絵をかくのは楽しい

4　歌うことが大好きで、人前で歌うのも気持ちがいい

👆どれを選べばよいか迷った４択問題の短文です。内容が似ていて、一見するだけだと、どれも正しそうですね。

●県平均と比較して、一番差が大きかった問題は３三（１）で、県より8.8%低い結果でした。改善されきたはずの選択式で適切なものを選べなかったのは、長文で、示された条件にのっとって会話文を読み、前後のつながりからもとの長文の中に出てきた事例を正しく引用することに課題があったためと考えます。ほかにも、県平均は上回っていますが、正答率が半数以下の問題２四や、３三（２）のように、条件作文については、今後も力をつける取り組みを続けていく必要があります。

今年度は昨年度からの授業改善が功を奏し、改善がみられました。上記の結果から、児童は、自分の考えや理由を伝える表現力はついているものの、提示された条件や資料、前後のつながりから情報と情報と結びつけ、正しいものを選ぶことには苦手感があることがわかりました。

課題だった長文問題への抵抗感については、過去問等に繰り返し取り組んだことで、向き合う胆力がついてきているといえます。今後も情報量の多さに惑わされず、キーワード等にフォーカスできるよう、様々な機会を生かして力をつけていきます。

毎年の傾向ですが、長文の読み取りを改善していくには、文量に慣れることと、量の多い問題文の中にも「似ている」あるいは「異なる」ことに気づく力や、「時系列」で整理する力、よい点、問題点など判断の材料となる**「キーワード」への反応を強くする力**をつけていくことが必要になります。そのためには、やはり語彙力を高めるしかありません。分析を進める中で、読書好きな子どもさんは、正しい選択ができていました。学年の発達に応じた読書活動に力を入れていく必要性を感じ、今年度は４月から週に１回、朝の読書の時間を設けています。

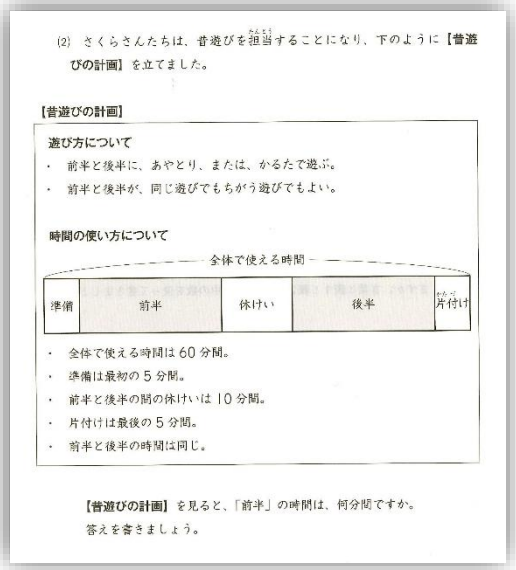
その学年で必要とされる力を、その学年できちんと身に付けるために、授業改善やチャレンジタイムなどを活用して力を伸ばしていきたいです。実は、**家庭学習が最も力を定着させる手だて**と言われています。宿題は、学習がわかったかの確認にもなっています。

【算数について】

〇立方体の体積を求める立式については正答率が 92.3%、県平均より 22.6%高く、ほぼ全員できていました。また、ペンギンのいる広場の込み具合を求める式の意味についても、県平均よりも 13.3%上回っており、毎年苦手とされる割合の学習について焦点化をし、徹底的に練習したことが定着につながったといえます。つまり**「やればできる」**ということです。

●３(1)の３枚（１・５・９）のカードを並べ替えて一番大きい数を作る問題では、正答率は 84.6%でしたが、県平均よりも 10.4 低かったです。難易度は低いのに、正答できなかったのは、量感が身についていない児童が一定数いることを表しています。

●４(2)の正答率は 53.8%でしたが、県平均よりも 22.7%低い結果でした。昔遊びの計画の図を見て、前半に使える時間を算出する問題でした。誤答になった児童は、時間が苦手だという特徴が現れていることと、算数の学習を日常生活に生かせていないことが読み取れました。



(2) さくらさんたちは、昔遊びを組織することになり、下のように【昔遊びの計画】を立てました。

【昔遊びの計画】

遊び方について
- 前半と後半に、あやとり、または、かるたで遊ぶ。
- 前半と後半が、同じ遊びでもちがう遊びでもよい。

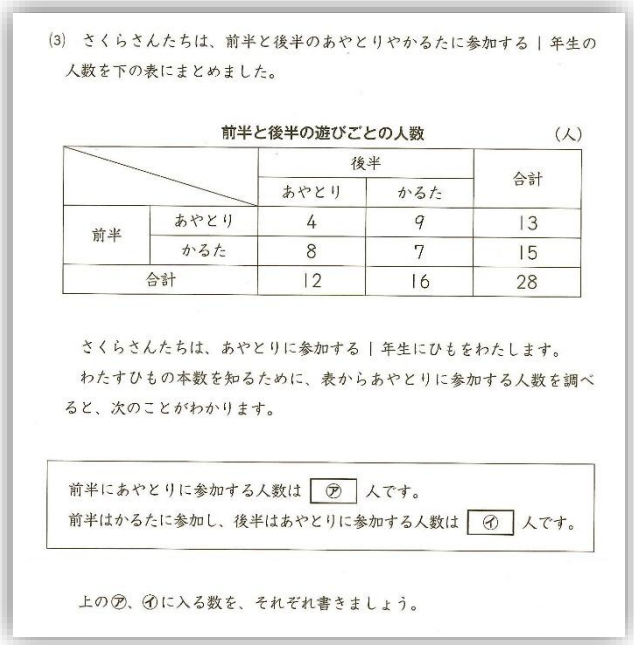
時間の使い方について

全体で使える時間

準備	前半	休けい	後半	片付け

- 全体で使える時間は 60 分間。
- 準備は最初の 5 分間。
- 前半と後半の間の休けいは 10 分間。
- 片付けは最後の 5 分間。
- 前半と後半の時間は同じ。

【昔遊びの計画】を見ると、「前半」の時間は、何分間ですか。
答えを書きましょう。



(3) さくらさんたちは、前半と後半のあやとりやかるたに参加する１年生の人数を下の表にまとめました。

前半と後半の遊びごとの人数 (人)

		後半		合計
		あやとり	かるた	
前半	あやとり	4	9	13
	かるた	8	7	15
合計		12	16	28

さくらさんたちは、あやとりに参加する１年生にひもをわたします。
わたすひもの本数を知るために、表からあやとりに参加する人数を調べると、次のことがわかります。

前半にあやとりに参加する人数は ㋐ 人です。
前半はかるたに参加し、後半はあやとりに参加する人数は ㋑ 人です。

上の㋐、㋑に入る数を、それぞれ書きましょう。

●また、4(3)の正答者は一人もいなかったです。表の読み取りがとても苦手であるという本校児童の弱みが表れてしまいました。

毎年同じ傾向になりますが、言葉だけでなく、数値や算数用語も使って順序よく説明できるようになることが、今、子どもたちに求められています。過不足なくわかりやすく説明することができるよう、算数用語を覚え、図や線を使って表すことに力を入れる。頭で考えたことを図に表すことに慣れる。そして、たくさんの問題にあたる。結局はこれにつきます。

ものごとを自分の頭の中ですっきりと解釈すると、相手にもわかりやすい説明ができます。そのためには、比較の考え方を働かせながら、差異点や共通点を捉え、新たな問題を見いだす習慣が必要です。例えば理科の学習などで観察や実験などの方法を学ぶ中で、具体的に「問い」を見出し、予測し、見通しを立てることを日常の授業の中で意識する、社会の学習などでは、なぜそうなっているか、時代背景をつかみ、起きた事象の要因を見出すなど、教科横断的な視点で児童に意識させる必要があると感じました。

【児童質問紙より】（※令和８年４月に実施した結果より）

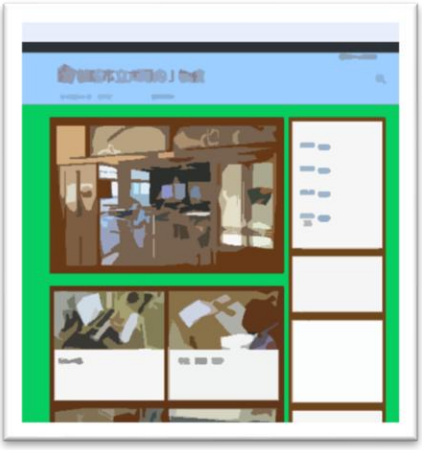
「毎朝朝食を食べていますか」の値は約 77%で全国平均より 6.1%低く、約 23%の児童が朝ごはんを食べていない実態が見えてきました。毎日同じ時間に寝ている児童は約 39%、毎日同じ時間に起きる児童も約 39%という結果でした。基本的生活習慣の定着においては一部に改善の必要性があると思われます。「早寝早起き朝ごはん」、健やかな毎日を過ごすために、子どもの心と体にはとても大事な習慣です。

次に、児童の 53%が「幸せな気持ちになることが頻繁にある」と答え、「ほぼ毎日人を助ける行動や、友だちと協力して課題解決に取り組む」と答えた児童は約 53%でした。この結果は逆に考えると、約 47%の子どもたちは幸せな気持ちを感じたり、友だちと協力して課題解決に取組んだりすることを意識していないと読み取ることができます。子どもたちが安心して様々なことに挑戦し、達成感や幸福感を感じられる学校生活が送れるよう、家庭との連携を大切にして一人一人と向き合い、12 歳の心の揺れをキャッチし、不安なことを減らすかかわりをしていかなければならないと感じました。

ただ、「友だち関係に満足している」と答えた児童は約 76%で、学級内の話し合いや意見交換も活発であるという結果も出ていました。いじめの認識は高く、92%の児童がいけないと考えていることもわかりました。

将来の夢や目標を持っている児童は約 69%で、自分の考えを工夫して発表できる児童も多いことがわかりました。先日、6 年生の児童が数名、校長室に来て、「がんばったけど、自分たちだけでは解決できなかったので、相談に来ました。」と言って、話をしにしてくれました。自分たちでまず考える、できることはみんなでやる、それでもできなかった場合は、大人に相談する。6 年生の子どもたちの解決への明確なビジョンと行動力に心を打たれました。素敵に成長してくれていると感じました。昨年度の６年生でも同じようなことがありました。それは、運動会のサプライズダンスです。自分たちでやりたいことを見つけ、行動し、道を切り拓いていく子どもたちは頼もしいです。あきらめずに実現しようとする姿は、大河内小学校の校風になっていると感じています。

大河内小学校ホームページもご覧ください



学校生活の様子をホームページでご覧いただけます。学校だよりでは紙面の都合上、伝えきれないことがたくさんあります。先週の修学旅行の様子も見学地ごとにアップしています。子どもたちの日々の活動の様子を紹介していますので、お時間のある時に見ていただけると幸いです。この学校だよりのタイトルにある二次元コードを読み取ると、大河内小学校のホームページが表示されます。「松阪市立大河内小学校」で検索していただいてもすぐに見ることができます。学校だよりも毎回配信しています。よろしくお願いします。

（※１０月からは、学校だよりもテトルでメール配信しています。）

長文の学校だよりになりました。最後まで読んでいただきありがとうございました。